Digital X-formation Division DX本部

2026年9月17日

LisB User Conference 2026

大林組×directで挑む未来の建設
―現場をつなぐ取り組み―

株式会社大林組
DX本部 高度デジタルソリューションセンター
先進技術部 先進技術課
西田　拓也

OBAYASHI MAKE BEYOND つくるを拓く

目次

1. 自己紹介

2. 会社紹介

3. これまでのdirectとの歩み

- directの導入歴、利用状況
- 全社展開のためのインフラ整備
- セキュリティ強化施策

4. これからのdirectでの取り組み

- 大林組が考えるこれからのdirectの利用方法
- direct botの活用事例紹介
- direct Appsの活用

5. 大林組におけるAIの取り組み

- 事例紹介
- AI専門チーム『AI共創ガレージ』の開設

6. 大林組×directで目指す未来

1. 自己紹介

自己紹介



西田 拓也

本社 DX本部 高度デジタルソリューションセンター
先進技術部先進技術課 係長

【業務経歴】

- 2012年より建築工事施工管理職として約7年を建築現場監督業務に従事。
（駅前再開発事業、RC造集合住宅、RC造庁舎、S造ホール、S造商業施設などを担当）
- 2018年よりICT担当・企画推進部門に異動し、約7年を生産現場に向けたICTツールの選定や開発、企画・運用・支援などの業務に従事（現職）

【業務例】

- 業務ツール（写真管理アプリ等）の選定～導入等のプロジェクトマネジメント
- 先進的ICT技術の調査、探求、試行
- 内閣府、国土交通省が主催する技術調査プロジェクトへの参画（2018年度、2019年度）
- 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博） 建設工事の統括管理業務ICT担当
（入退場顔認証システム、車両管理システム、などを担当）

2. 会社紹介

大林グループ紹介 | 2026年3月現在

- ■ 創業　1892(明治25)年1月 (創業135年目)
- ■ 設立　1936(昭和11)年12月
- ■ グループ　156社(当社含む)
- ■ 大林組海外事務所　世界17カ国・地域
- ■ 連結売上高　25,862億円
- ■ 連結従業員数　18,031人(単体9,472人)
- ■ 事業内容

  国内外建設工事、地域開発・都市開発・その他建設に関する事業、及びこれらに関するエンジニアリング・マネージメント・コンサルティング業務の受託、不動産事業ほか

- ■ 代表的な施工案件

  東京中央停車場、大阪城天守閣、国立代々木競技場第二体育館、東京湾アクアライン、東京スカイツリー、エスコンフィールドHOKKAIDO、大阪・関西万博



季刊大林:「スマート・ウォーター・シティ東京」建設構想

3. これまでのdirectとの歩み

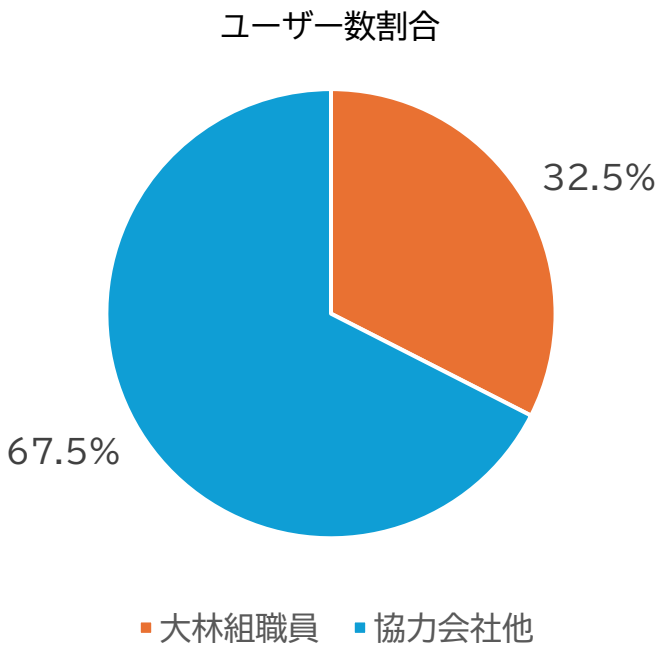
これまでのdirectとの歩み

directの導入歴

2019年より建築・土木分野に限らず全社の現場における標準ビジネスチャットツールとして展開を開始
2026年で8年目となり、現在では日々の現場運営業務では欠かせないコミュニケーションツールとなっている

利用状況 （2026年8月時点）

プロジェクト(現場)数　:約1,200PJ(建築工事:約700、土木工事:約500)
契約ユーザー数　:約20,000名
（大林組職員:約6,500、協力会社他:約13,500）
最多所属数　:約900名(1プロジェクト内に所属するユーザー数)
最多ゲスト数　:約790名(1プロジェクト内に招待されているゲスト数)
最多メッセージ数　:約38,000メッセージ
（1プロジェクト内で交わされているメッセージ数）



これまでのdirectとの歩み

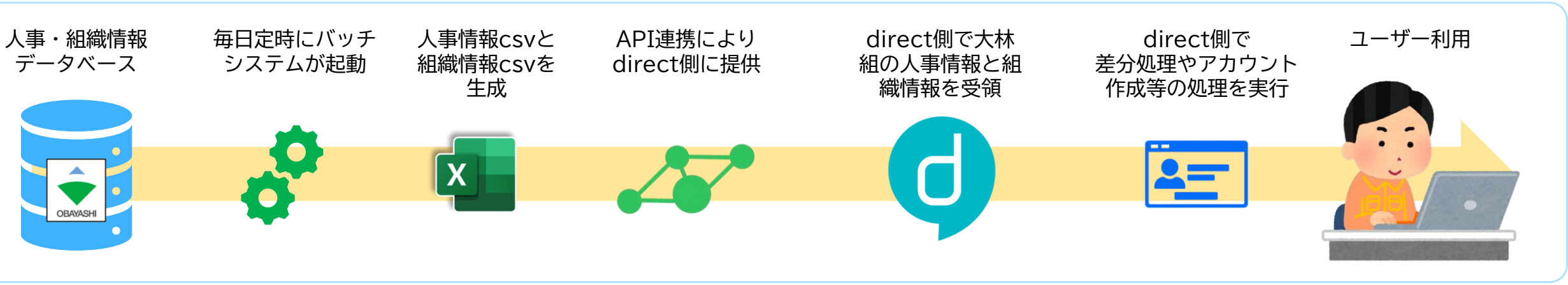
◘ 全社展開のためのインフラ整備

- ➢ 人事情報・組織情報の自動連携

ユーザー管理(異動管理など)とプロジェクト作成の手間が課題

社内の人事・組織情報を自動で連携する仕組みを構築

ユーザーに手間をかけさせない効率的なインフラ環境を整備



- ➢ 現場ユーザーの配属や異動に合わせたユーザー情報の登録・更新が可能に！
- ➢ 社内システムにプロジェクト情報が新規登録された際に、direct上に自動でプロジェクト作成とユーザーの招待を実現！

これまでのdirectとの歩み

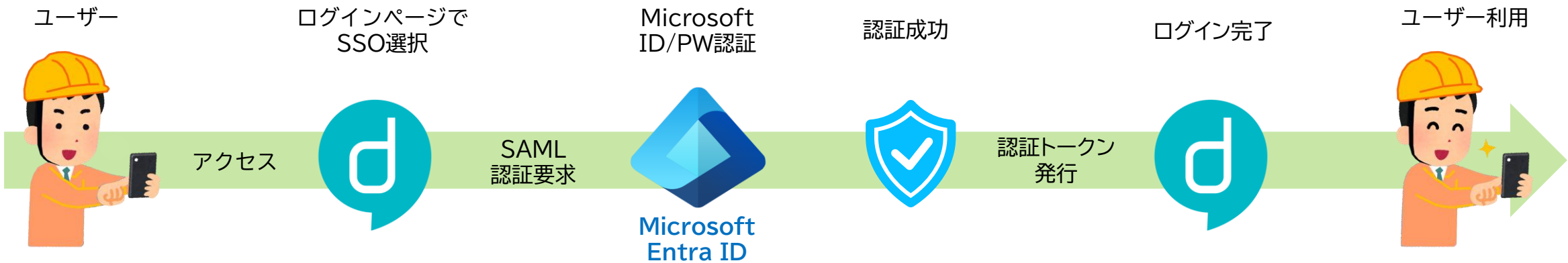
◘ セキュリティ強化施策 ①

- Microsoft認証によるSSO(シングルサインオン)の実現

システム毎のユーザーIDとパスワード管理によるセキュリティリスクやログイン手間が課題

1つのアカウントで複数のシステムへログインできる仕組みを採用

利便性・業務効率が向上し、ID管理の一元化によるセキュリティリスク低減を実現



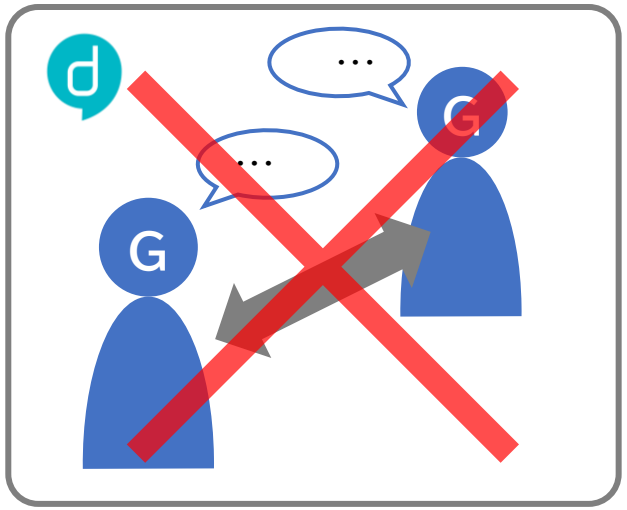
- システム独自のID/パスワード管理が不要となり、不正アクセスのリスクが低減！
- 一度の認証で複数システムにアクセス可能でパスワードを複数覚える必要無し！

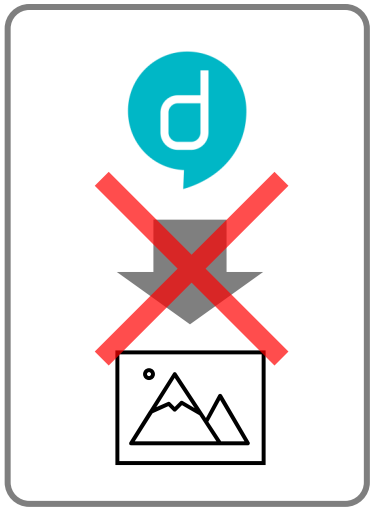
◘ セキュリティ強化施策 ②

➢ セキュリティ対策のための運用ルール

社内標準ルールとして以下の設定を適応

1. 協力会社ユーザーはすべてゲストとして招待
2. ゲストのみの新規トーク作成不可、トーク不可
3. ゲストによる添付ファイルのダウンロード不可
4. ゲストの連絡先一覧に、他のゲストを表示しない
5. 端末へのファイル保存を制限
6. iOS/Android端末でのスクリーンショットの監視・禁止







4. これからのdirectでの取り組み

◘ 大林組が考えるこれからのdirectの利用方法

➢ コミュニケーション基盤としての利用

大林組現場職員と協力会社職員（社外関係者）とのコミュニケーション基盤として継続的に利用を進めていく。
サポート体制やライセンス管理、セキュリティ対応などマネジメントフェーズの強化に取り組む。

➢ コミュニケーションだけじゃない高度な利用

コミュニケーション基盤として全社で広く活用が進んできたからこそ、
コミュニケーションに留まらない現場支援ツールとしての高度な利用方法を模索していく。
例）ナレッジ（データ）活用、AIエージェント、システム連携、自動化など



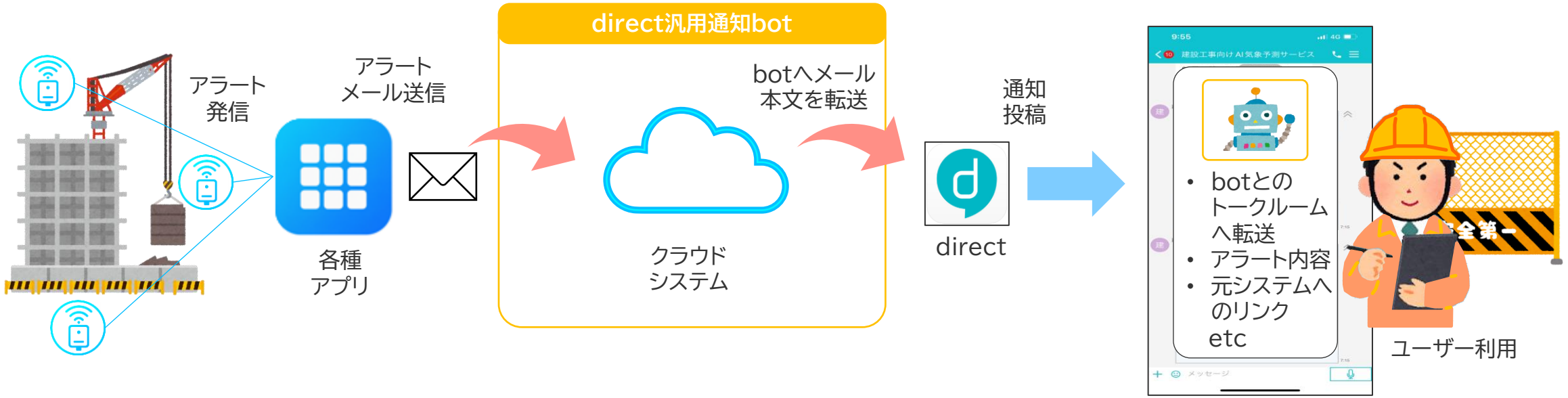
これからのdirectでの取り組み

◘ 通知botシステムの紹介

『通知botシステム』とは、大林組の自社システムなどとdirectを連携させるために開発したシステム

➢ システムの特徴

- 連携先のシステムにメール送信機能があれば連携が可能で汎用性が高い
- 大林組では環境モニタリングシステムやセンシングシステムなどの様々なシステムで連携を実現



CHANGE PEOPLE BUSINESS JAPAN

提供会社：株式会社チェンジ
directボット開発パートナーであり開発・保守サービスを実施

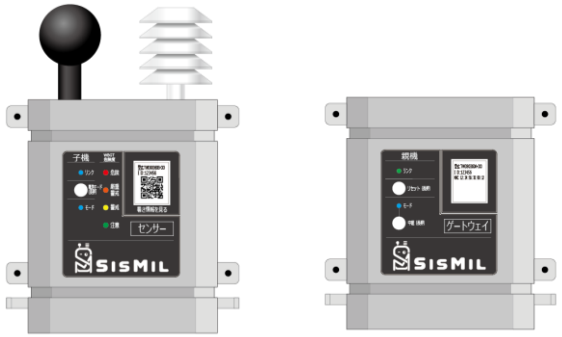
これからのdirectでの取り組み

■ 環境モニタリングシステム『SisMil』との連携

『SisMil』とは、暑さ指数など様々な環境測定値を遠隔監視・一元管理できるクラウド型電子式WBGT指数計

➢ 導入のメリット

- 熱中症リスクを未然に防止
- 複数個所の危険な状況をいち早く察知・周知する計測業務の省力化
- 測定値の記録保管による作業環境の分析と改善



本体写真
（左：子機、右：親機）



クラウド管理画面

➢ 大林組での導入実績(2025年度)
建築：約220現場、土木：約180現場
合計：約400現場

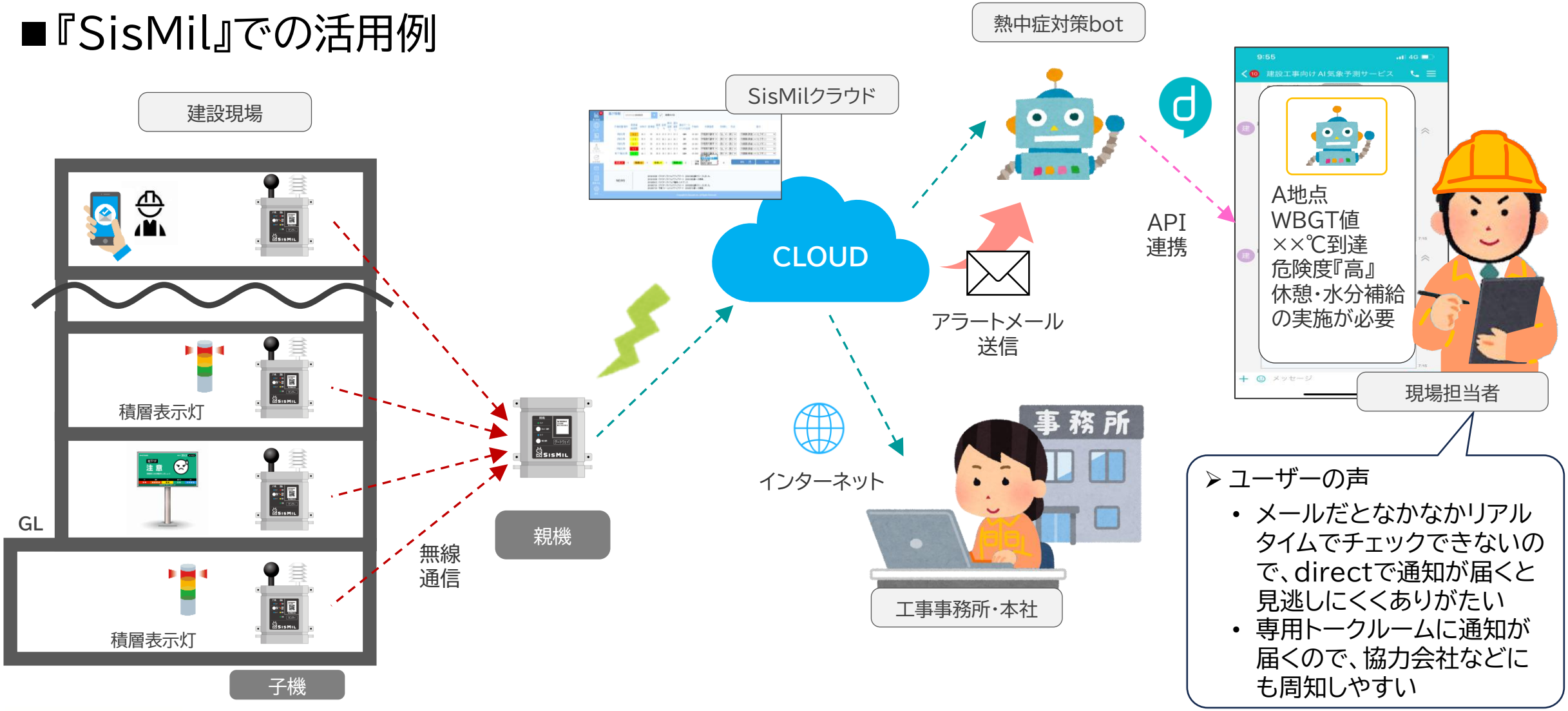
➢ 大林組以外での導入実績(累計)
建設業、製造業、スポーツ施設、
公共施設、学校、農業法人ほか
累計導入拠点数　3，000拠点以上



提供会社：株式会社オーク情報システム
大林組のグループ会社で情報系サービスを広く展開している

これからのdirectでの取り組み

■『SisMil』での活用例



➢ ユーザーの声

- メールだとなかなかリアルタイムでチェックできないので、directで通知が届くと見逃しにくくありがたい
- 専用トークルームに通知が届くので、協力会社などにも周知しやすい

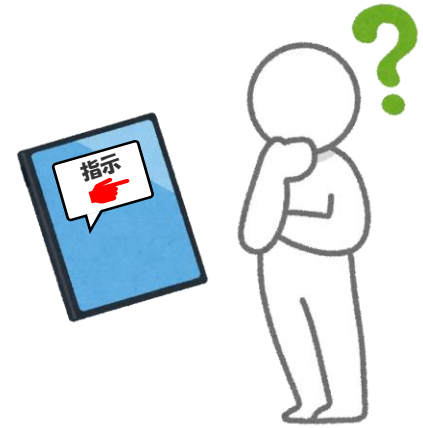
提供会社：株式会社オーク情報システム
大林組のグループ会社で情報系サービスを広く展開している

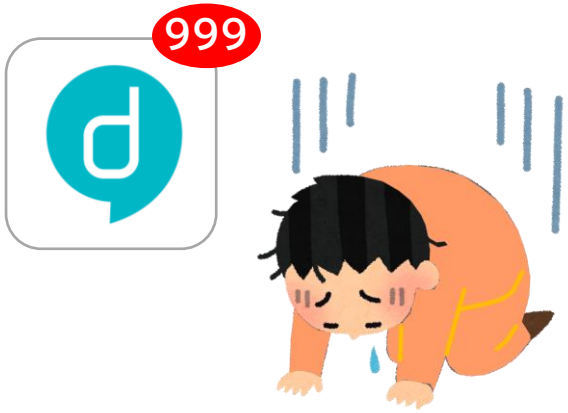
◘ direct Appsの活用

direct Appsの中でも大林組では『タスク機能』にスポットを当てて有効性を検証し展開をしている。

➢ これまでの課題

- 現場で多くのやりとりがされているからこそ、上長からの是正指示などがタイムライン上であったとしても、別の話題で流れて見逃してしまうことがある
- 指示が曖昧で誰が対応するべきかわからず、結果として放置されてしまう
- 打合せなどで少し見れない間に、多くの「未読」がたまり見返すのが大変





『タスク機能』により

✓ 指示の**見落とし・見逃し**を防ぐ

✓ **担当者を明確**にする

✓ 指示を出した側も進捗状況などを**いつでも確認可能**

direct Appsの活用

➢ 大林組での取り扱い

- direct Apps（無償プラン）を建築土木含めたすべての現場が利用可能
- 有償プランへのバージョンアップも希望する現場がすぐに利用可能な環境を整備
- 社内のdirect専用ポータルサイトでdirect Appsの専用ページを整備し、大林組のルールやサポート体制の情報を公開

➢ 現場ユーザーからの意見

- 対応状況のステータスが分かり、記録としても残るので良い
- 大規模現場になるほど日々の指摘事項が多くなるため、1件ずつタスクを登録するのが大変
- 普段のトーク画面とタスク管理画面が異なるため気付きにくい



5. 大林組におけるAIの取り組み

大林組におけるAIの取り組み～事例紹介①～

◘ AiCorb(アイコルブ)

- 建物のスケッチや3Dモデルから複数のファサードデザインを自動で生成するAIサービス
- 建築設計の初期段階の作業効率化に寄与
- 発注者との早期合意形成にアプローチする

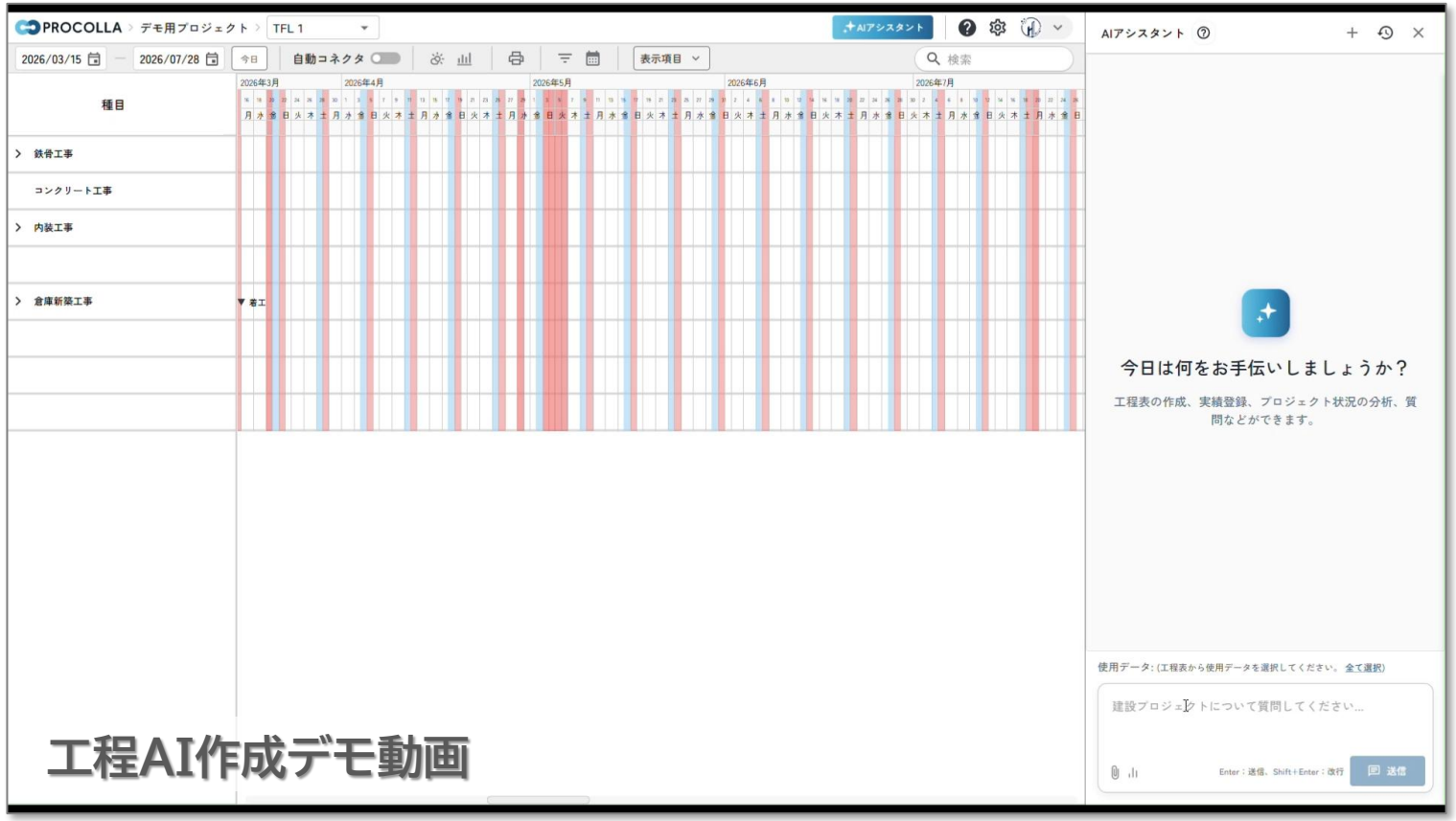


<2022/3/22 リリース>

大林組におけるAIの取り組み～事例紹介②～

◘ PROCOLLA(プロコラ) ＜2026/6/1 利用開始＞

- AIアシスタント機能を有するクラウド型の工程管理サービス
- AIアシスタントによる工程表の自動作成や自然言語による工程の変更指示が可能
- クラウドサービスの強みを活かした同時編集機能なども実装



工程AI作成デモ動画

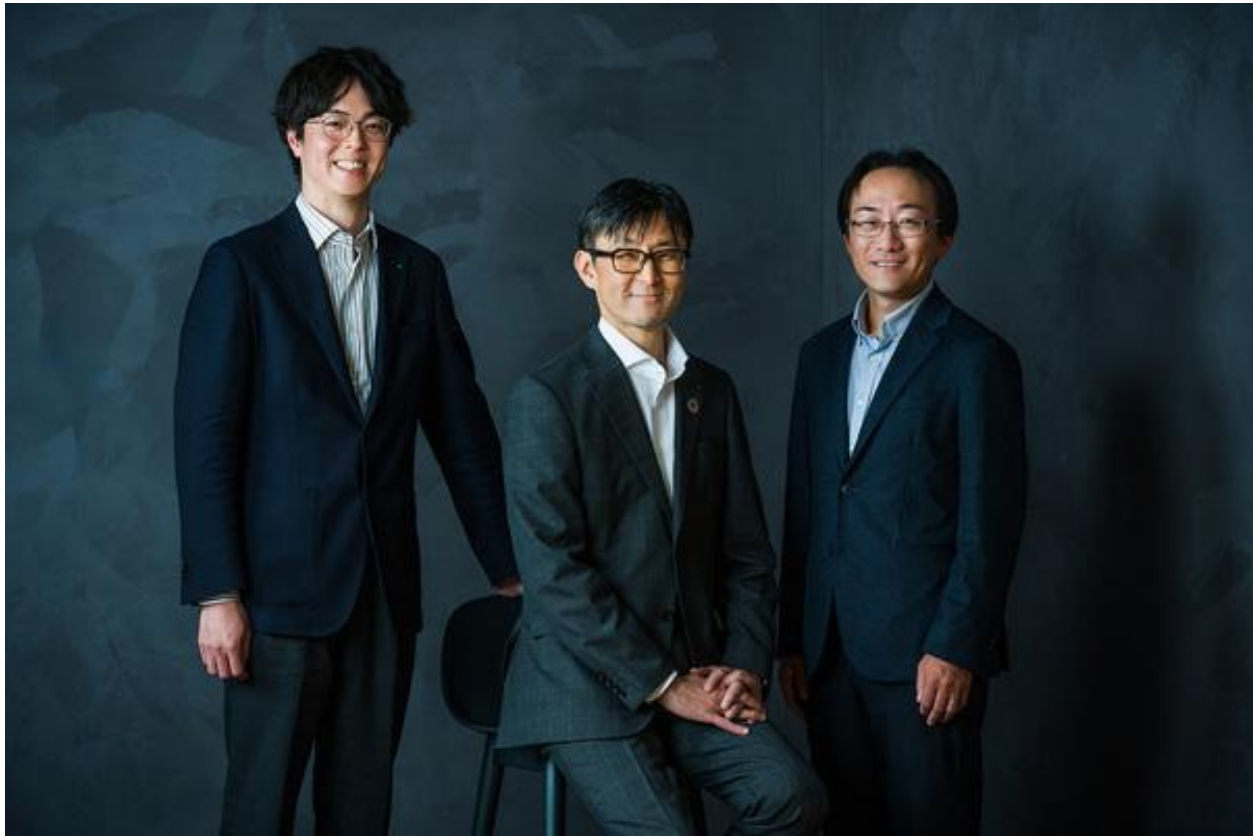
Oprizon

販売元：株式会社オプライゾン

大林組におけるAIの取り組み

◘ AI専門チーム『AI共創ガレージ』の開設(2026/3 開設)

- AI活用の目的は「効率化」ではなく「業務変革」である
- AIエージェントと対話をしながら業務を進める「新しい業務スタイル2.0」
- ベテラン社員の知見を次世代につなぐ「ナレッジ継承AI」の挑戦



「DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー」電子版

新しい仕事のスタイル2.0――大林組がAIで挑む業務プロセス変革

ベテラン社員の知見を次世代につなぐ、大林組「ナレッジ継承AI」の挑戦――新しい仕事のスタイル2.0

6. 大林組×directで目指す未来

大林組×directで目指す未来

コミュニケーション基盤の強化

directは現場におけるコミュニケーション基盤として、電話やメールに代わる情報インフラであり、現場を支える土台的な役割となっている。

そのため、更なる利便性の向上と合わせたセキュリティの継続的強化は必要不可欠である。

AIやデータを活用した高度利用

directで日々行われるやり取りは、現場における重要な情報資産であると考え、AIやデータ活用などdirectの高度利用を目指す。



これからの大AI時代において、大林組をはじめとしたユーザー企業とLisBがこれまで以上に協力することで、建設業の更なる発展を実現させましょう！

大林組×directで目指す未来




OBAYASHI
MAKE BEYOND
つくるを拓く
現在（いま）とあるべき未来をDXでつなぐ
ご清聴ありがとうございました